先端分析技術賞規程

Ref. No.　B009C

第1条　本会に先端分析技術賞（以下、本賞という）を設け、先端的分析技術開発（機器開発、分析技術開発など）や実用化において、優秀なる業績と展開性を示した正会員あるいは正会員を含むグループにこれを贈呈する。

第2条　本賞は、（一社）日本分析機器工業会（以下ＪＡＩMAという）のスポンサーシップによるＪＡＩMA機器開発賞によって構成される。

第3条　本賞は、毎年2件以内とする。

第4条　本賞は、賞状、賞牌及び副賞とする。

第5条　本賞を受けた者は、受賞記念講演を行い、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿するのが望ましい。。

第6条　本会会長は、毎年会誌「ぶんせき」７号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載するとともにＪＡＩMA機関誌夏号に掲載を依頼する。

第7条　本賞への応募者は自薦・他薦を問わず、本会支部長、本会研究懇談会委員長またはＪＡＩMA専務理事あてに必要書類を定められた期日までに提出する。

第8条　支部長、研究懇談会委員長またはＪＡＩMA専務理事は、候補者を会長に推薦する。

第9条　候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a）推薦書［所定の用紙］
b）推薦理由書［A4判用紙を縦（1行45字×40行）に使用し、本文及び業績リスト（主要なもの）はそれぞれ2頁以内で作成すること］
c）被推薦者履歴書［所定の用紙］
d）説明資料［特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料］

第10条　本賞候補者の選考は、別に定める奨励賞・技術功績賞審査委員会　に、ＪＡＩMAが推薦する2名以内の委員を合わせて構成する先端分析技術賞審査委員会（以下審査委員会という）において行う。

2. 審査委員は、会長がこれを委嘱する。
3. 委員長は、奨励賞・技術功績賞審査委員会の委員長が兼務する。

第11条　審査の方法は別途定める賞審査規程による。

第12条　審査委員会は、推薦された候補者について審議を行い、本賞贈呈の価値ありと認めたものから2件以内を選考し、当人及び所属機関長の承諾を得て、選考結果を5月末日までに会長に報告する。

第13条　会長は、前条によって報告された候補者を理事会に報告し、その承認を得て、本賞受賞者を決定する。

第14条　本規程の改正は，理事会の議決を経て、ＪＡＩMAの了承を得ることとする。

付規　1)支部長が被推薦者となることは本規程上差し支えない。

2)本規程の施行をもって、先端分析技術・機器開発賞規程を廃止する。

3)2008 年度表彰対象から施行する。

2007 年 4 月 13 日制定　2015 年 6 月 9 日一部改訂　2018 年 6 月 14 日、2020 年 8 月 20 日、2021 年 8 月 10 日一部改訂、2025 年 12 月 25 日改訂（A 改定）　2026 年 3 月 27 日改定（B 改定、賞審査委員選出規程制定に伴う改定)、2026 年 7 月 8 日 C 改定

先端分析技術賞制定趣意書

本会は、2004 年２月に（社）日本分析機器工業会（JAIMA）のご支援のもとに先端分析技術・機器開発賞を制定致し、その趣旨に沿った活動をしてまいりました。近年、より効率的・効果的で信頼性の高い分析技術が必要とされ、機器開発に並行して先端的な分析手法・物質評価手法の重要性が再認識されてまいりました。本会は、より信頼性の高い分析技術の発展のために標準物質の開発、分析手法の標準化に力を入れ、学術進歩や社会発展に貢献してまいりましたが、このたび（財）化学物質評価研究機構（CERI）のご協力により、この分野で優れた業績を挙げた方を表彰することになりました。

（社）日本分析機器工業会（JAIMA）および(財)化学物質評価研究機構（CERI）のご賛同を得て、先端分析技術・機器開発賞を発展的に改編し、先端分析技術賞と改称し、この中に JAIMA と CERI のスポンサーシップによる JAIMA 機器開発賞と CERI 評価技術賞を制定することになりました。また、この趣旨を広く活かすことを願い、（１）対象者の年齢条件をなくし、個人あるいはグループへと広げ、（２）本会研究懇談会委員長やCERI 役員にも推薦をして頂くこととしました。

先端分析技術・機器開発賞の意義を生かし、更なる分析技術の進展を期待し、本賞へのご理解とご協力・ご支援をお願い致します。

なお、参考までに先端分析技術・機器開発賞の趣旨を付記します。

「本会は、創立１０周年記念事業として学会賞及び有功賞を，創立２０周年記念事業として奨励賞を，創立３５周年の際には技術功績賞を，そして創立５０周年記念事業として学会功労賞を，それぞれ制定致しました。これらの賞は，個人あるいはグループの独創的学術業績あるいは多年にわたる貢献を称えるものであり，多くの会員がその誉れを受けておられます。

新世紀を迎え，分析化学がその重要性を増してくる中，２００２年のノーベル化学賞は分析化学分野が受賞対象となり，学会の名誉会員にもなりました田中耕一氏が受賞されたことは記憶に新しいところです。この偉業を契機として，我が国の分析技術開発力の高さがあらためて認識されたのは，日本分析化学会としても大変慶ばしいことでありました。また２００３年には学術会議が主催する「研究基盤としての先端機器開発・利用戦略」特別シンポジウムにおいて決議がなされ、その中で先端的機器の基礎技術の開発、製品化などで優れた業績を挙げた者及び企業等を顕彰する制度を整えることが要請されました。

本会では，この機会に分析技術の重要性をさらに広く社会にアピールすることを目的に，（社）日本分析機器工業会のスポンサーシップの下、新たに先端分析技術・機器開発賞を制定することといたしました。この賞は，分析技術・分析機器開発の画期的な進歩及び応用において著しい功績のあった 45 歳以下の個人を対象にするものであります。

上述の趣旨を御理解のうえ，会員の皆様の御支援をお願い申し上げます。」

（先端分析技術・機器開発賞規程から先端分析技術賞規程への改編は 2007 年 4 月 13 日理事会承認済み）

2007 年 6 月 15 日理事会承認、